

⑳ 持続可能な竹林整備と人が集まる場所の創造を目指して

団体名 : 環境保全教育研究所(長崎県長崎市)

	地域環境保全タイプ (里山林保全)
○	地域環境保全タイプ (侵入竹・竹林整備)
○	森林資源利用タイプ
○	森林空間利用タイプ



活動に取り組んだ経緯

地域が一体となった竹林整備事業

- ・環境保全教育研究所は、子どもたちの自然に接する機会の減少や、地域環境に関する社会問題の解決のきっかけ提供や学ぶ場をつくるために平成22年に設立された。
- ・長崎市田手原町(たでわらまち)には、竹林や広がっているほか、竹細工職人の存在やタケノコを収穫してきた歴史がある。しかし、近年の竹林所有者の高齢化に加え、放置竹林の増加もあり、動植物への影響や枯れ竹の除去が問題となっていた。
- ・こうした地域の問題を解決するため、同研究所が中心となり、長崎市社会福祉協議会や地域の自治会・学童保育など多様な団体と連携し、本交付金を活用した竹林整備事業が進められている。

活動の内容

地域住民の要望に沿った竹林整備(地域環境保全タイプ)

- ・竹林の保全を目的とした活動では、竹林を整備する前に現地調査を行い、所有者がどのような竹林へ再生したいのか要望を汲み取った上で、整備している。
- ・具体的な整備手順としては、枯れ竹の除去、年数の古い竹から間引きし、竹林へ隈なく日光が届くように整備を進めている。

研究が進む伐採した竹の活用方法(森林資源利用タイプ)

- ・同研究所では、伐採した竹を活用した竹炭づくりに加え、竹チップによる土壌改善、竹炭利用の消臭剤など竹の資源利用を進めている。
- ・また、伐採した竹を活用し、炭焼き、竹細工、竹灯籠、竹チップを混ぜた堆肥などさまざまな活用方法を模索し、用途も広げている。

竹林整備の体験イベントを夏休みに開催(森林空間利用タイプ)

- ・竹林整備を体験できるイベントを夏に開催しており、夏休み中の子どもたちが多数参加する森林環境教育の場となっている。



▲ 地域の子どもたちとの竹林伐採



▲ 伐採した竹を生かした炭焼き

活動の成果・効果

竹林の保全と動植物の再生につながった

- これまで放置されていた竹林が整備され景観が美しくなったほか、日光が入るようになり動植物が育つようになった。また、地域住民も地元の竹林に対する関心が高まった。

世代間交流や地域コミュニティの形成に寄与

- 竹林整備を体験できるイベントの準備にあたり、竹の切り出しや、節取りなど地域の自治会や子ども、高齢者などが、ともに準備から行うことで、子どもたちの竹林整備をはじめとする自然環境教育のほか、地域における世代間交流や、地域コミュニティ形成にも寄与している。

活動タイプ	延べ参加人数	活動回数	活動面積
【侵入竹・竹林整備】	(H25) 34人 (H26.10) 69人	(H25) 13回 (H26.10) 20回	(H25) 0.5ha (H26) 4.3ha
【森林資源利用】 (竹炭焼き)	(H25) 8人 (H26.10) 4人	(H25) 2回 (H26.10) 1回	(H25) 0.5ha (H26) 0.5ha
【森林空間利用】 (竹林整備体験)	(H25) 51人 (H26.10) 54人	(H25) 2回 (H26.10) 3回	—

工夫した点・苦労した点・今後の課題

非日常的な体験を企画

- 地域の子どもたちに竹林に関心を持ってもらうため、楽しく体験できる体験を企画するよう試行錯誤している。竹細工教室など、日常生活では体験できないプログラムを心がけている。
- 伐採した竹を竹炭にして、細かいパウダー状に加工した「竹パウダー」を作った。竹炭のパウダーは嫌気性で乳酸菌発酵が促され、土壌改良に効果があるため、無農薬での野菜づくりや竹林の土壌流出を防ぐのに役立っている。

さまざまな世代や多様な団体との緊密な連携が課題

- 竹林整備や体験教室の開催にあたり、さまざまな世代の人や多様な団体と連携しながら事業を進めているため、目的意識の共有や、日程調整など苦労した。
- この活動を地域に浸透させ、多くの子どもたちに参加してもらうため、行政や社会福祉協議会と連携した父母への呼びかけなど地道な周知を行うことで活動の輪を広げた。



▲消臭効果のある竹炭商品

<総括> 成功を生んだポイント

多種多様な人が集まる「交流の場」となっている

- 竹林整備をきっかけに、普段関わる人が少ない子どもから高齢者、学生など多種多様な人が自然と集まる「交流の場」となっている。
- 地域の子どもたちにとって、竹細工教室や竹の伐採など「体験学習の場」の役割も担っている。

地域から愛される活動を目指して

- また、この活動を「へんちくりん」と名づけ、親しみやすさ、地域住民や市内外からも気軽に参加しやすい活動として発信していること、そして地域から愛されていることが成功している要因といえる。このユニークなネーミングには、竹林とさまざまな世代の人たちが出逢って、変わっていくという願いが込められている。



▲伐採した竹の搬出風景